

小中学生作文コンクール 審査員特別賞受賞作品

「おばあさんとの大切な時間」

川口市立前川東小学校 四年 伊藤 桃花

六月の土曜日の夜。近くのショッピングセンターで買い物をして食事をする前にお手洗いに母と行きました。手を洗いにいくうとした時、子供用の小さい手洗い場だった車椅子のおばあさんがティッシュを落としたので、わたしは拾って、

「おん、おんね。」

と渡すと、おばあさんはニコニコした顔で、

「おんね、ありがとうね。」

と、言ってくれました。わたしは、おばあさんのニコニコした顔を見てとても嬉しくなり、初めて会った方なのに何だか胸が熱くなりました。母がおばあさんに

「出口まで、押させていただきますね。」

と、言っていると、車椅子の向きを変え、出口まで一緒に出ました。母が、

「お気を付けて。」

と、言っていると、おばあさんは後ろを回して母とわたしの顔を見て、

「じ親切に、ありがとうございます。嬉しかったわ。」

と、何度も頭を下げてお礼を言ってくれました。数分の出来事だったのに、その時間はとても大切な時間になりました。母がわたしに

「ティッシュをすぐ拾って、おんねだったね。ありがとう。」

と、嬉しそうに言ってくれました。わたしは、はずかしながら屋なので母はわたしのほんの少しの行動をとてもほめてくれました。

少しの勇気が大きな喜びになって返ってきてくれました。おばあさんのニコニコした顔を今でも覚えています。人とつながり、支え合い、ふれあう事で人は成長できると思います。わたしは、思いやりは巡り巡って必ず自分に返ってくるよ信じています。この時間が、わたしにとっても大切な事を教えてくれました。これからも、思いやりの心を持ちながら、成長していきたいと思っています。